

第1章 調査の概要

1. 調査対象

本調査では、平成12年度までに水源地域活性化計画を策定した下記に掲げる23地域について実施した。

表1-1 調査対象地域

年度	地域名(所在地)
62	・川治ダム周辺地域(栃木県栗山村) ・大戸川ダム周辺地域(地が県信楽町)
63	・世増ダム周辺地域(青森県南郷村、岩手県軽米村) ・境川ダム周辺地域(富山県上平村)
元	・当別ダム周辺地域(北海道当別町) ・長島ダム周辺地域(静岡県本川根町)
2	・真野ダム周辺地域(福島県飯館村)
3	・津軽ダム周辺地域(青森県面目屋村) ・竜門ダム周辺地域(熊本県菊池市)
4	・椿山ダム周辺地域(和歌山県美山村)
5	・大松川ダム周辺地域(秋田県山内村) ・末武川ダム周辺地域(山口県下松市)
6	・大滝ダム周辺地域(奈良県川上村)
7	・早明浦ダム周辺地域(高知県れい北地域)
8	・湯田ダム周辺地域(岩手県湯田町) ・鶴田ダム周辺地域(鹿児島県鶴田町、大口市)
9	・廻堰大溜池周辺地域(青森県鶴田町) ・九谷ダム周辺地域(石川県山中町)
10	・忠別ダム周辺地域(北海道東神楽町、美瑛町、東川町) ・尾原ダム周辺地域(島根県木次町、仁多町)
11	・高山ダム周辺地域(京都府南山城村)
12	・平瀬ダム周辺地域(山口県錦町) ・小石原ダム周辺地域(福岡県小石原村)

2. 調査方法と項目

調査は、第一段階として、全調査対象地域に調査票を配布・記入していただき、第二段階として各水源地域で取り組まれた事業を、整理体系化し、同種の事業の中から、事業の進捗が著しいもの、事業化のなかで新たな展開をみせているもの、事業実施が住民などの具体的取り組みとして広がっているものなど代表的な事業についてヒアリング調査を行った。

第一段階の調査票に記述した項目は、以下の通りである。

■調査項目

- ・現在の地域活性化施策の状況（具体化された事業）
- ・地域住民や民間を主体とする地域活性化のための仕組みや組織づくり
- ・対策調査の計画内容以外で具体化された事業

■活性化事業の体系化と活性化計画事業の分類

図1-1 活性化事業の体系化

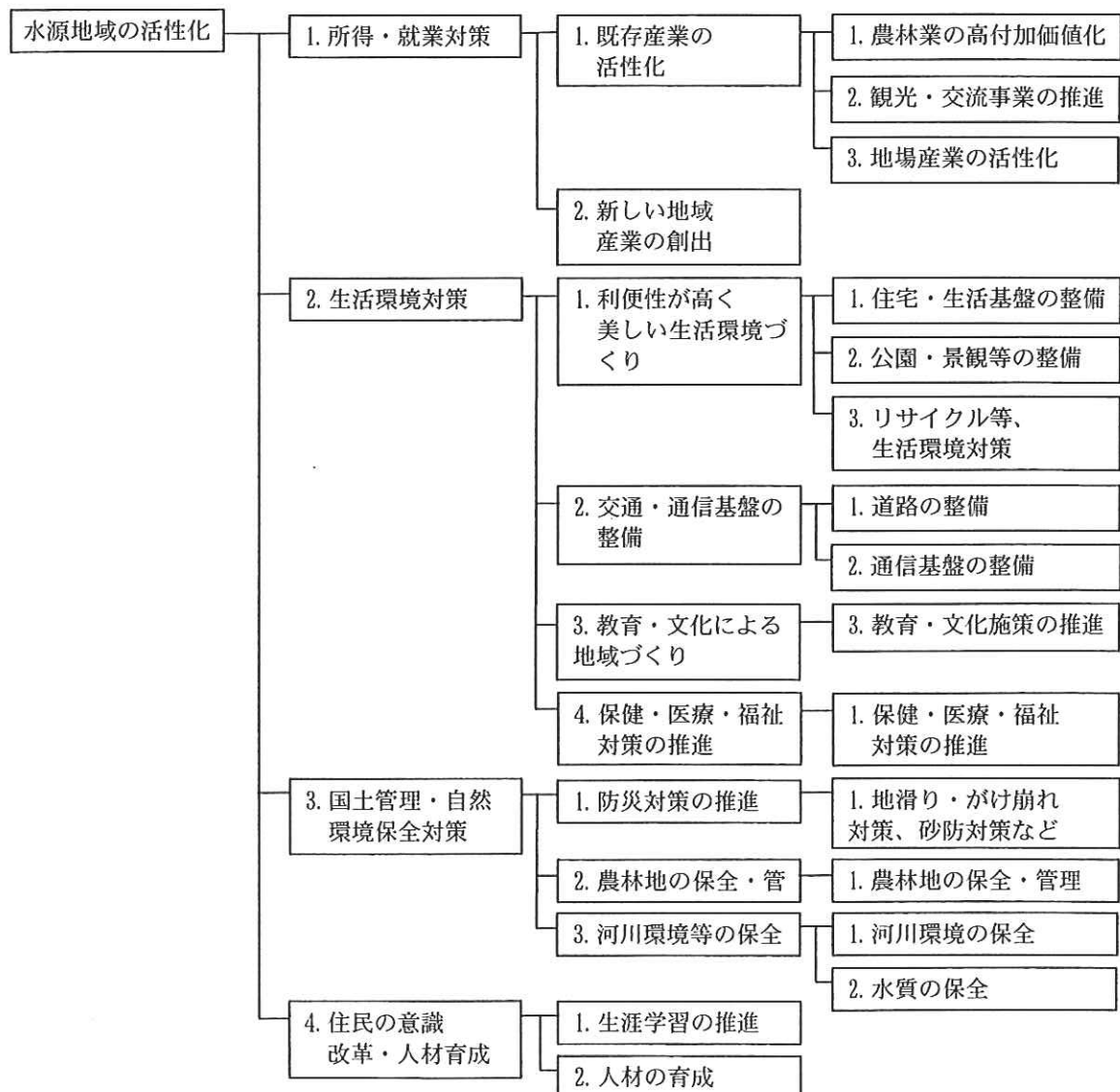


表1-1 既存の水源地域対策調査実施箇所のその後の取り組み

■ : 代表事例

区分	施策		活性化対策調査実施
所得・就業対策	既存産業の活性化	農林業の高付加価値化	<p>■北海道当別町（当別ダム） 青山ふれあい広場整備（H7～8） （ふれあい広場、農機具格納庫等の整備）</p> <p>■青森県西目屋村（津軽ダム） 農産物直売所、レストラン整備（H10） ※西目屋村特産会（H10～）</p>
		観光・交流事業の振興	<p>■栃木県栗山村（川治ダム） 大王キャンプ場を利用した上下流交流事業（H6～10）</p> <p>■青森県南郷村（世増ダム） 新井田川流域交流施設整備（H13～16）</p> <p>■熊本県菊池市（竜門ダム） 各種ボート大会（毎年） 龍門ふるさと祭り（毎年） 湖上新能（H10） ※龍門ふるさと振興会（H10～）</p> <p>■和歌山県美山村（椿山ダム） 美山レガッタ（H9～） トライアスロン in 紀の国美山（H9～）</p> <p>■秋田県山内村（大松川ダム） ダム周辺環境整備（公園整備）（H10～12）</p> <p>■山口県下松市（末武川ダム） 米泉湖ふれあいまつり（毎年） 米泉湖サマージャンボリー（H13） 菜の花まつり（H13）</p> <p>■奈良県川上村（大滝ダム） 森と水の源流館（H11～13）</p> <p>■高知県大川村（早明浦ダム） ※吉野川（早明浦ダム）上流域対策推進懇話会</p> <p>■岩手県湯田町（湯田ダム） 観光客誘導システム（サイン）整備（H11～14） ほっとなふるさと情報発信事業（H9） （錦秋湖 SA に情報発信基地を整備）</p> <p>■鹿児島県鶴田町（鶴田ダム） 水辺の楽校 鶴田龍舟祭（H10～） ※水辺の楽校鶴田龍舟祭実行委員会 鶴田ダム桜祭り（H5～） 鶴田ダムジョギング大会（H5～） 曾木の滝周辺整備事業（H14～18）</p> <p>■北海道美瑛町（忠別ダム） 丘のまちびえいクラブ（農村都市交流事業）（9ヶ月間）</p> <p>■島根県木次町（尾原ダム） 尾原ダム・菜の花まつり（毎年） ※同上まつり実行委員会 （ダム周辺地区活性化協議会など）</p> <p>■島根県仁田町（尾原ダム） 斐伊川流域環境ネットワーク(NPO 斐伊川クラブと連携)（H9～）</p> <p>■山口県錦町（平瀬ダム） 錦川スーパーフォーラム（H13）</p>

区分	施策		活性化対策調査実施
		地場産業の活性化	■北海道美瑛町（忠別ダム） 農産物加工品の開発（通年） ■福岡県小石原村（小石川ダム） 小石原焼顧客データベースの構築・運営
	新しい地域産業の創出		■北海道美瑛町（忠別ダム） 農観学園設立準備会（H13～） ※農観学園設立準備会
生活・生活環境対策	利便性の高い美しい生活環境の創出	住宅、生活基盤等の整備	■山口県下松市（末武川ダム） 農村集落排水事業 ■島根県仁田町（尾原ダム） ダム湖アクセス道路の整備（H2～13、14～）
		公園・景観の整備	■山口県下松市（末武川ダム） 記念の杜（市民が記念樹を植樹） ■岩手県湯田町（湯田ダム） 句碑公園整備（H7～10） 湯本湖岸公園整備（H12～15） ■北海道美瑛町（忠別ダム） 景観オーナー制度（景観保全条例）（H14～） ■島根県仁田町（尾原ダム） 県立ダム湖公園整備（H12～20）
	交通・通信機能の向上	道路、情報通信基盤の整備	■北海道当別町（当別ダム） スクエーン大通線、プラザ整備（マイロード事業、H2～8） ■北海道東川町（忠別ダム） 旭岳温泉・天人峽温泉シャトルバス構想（H18～）
	教育・文化による地域づくり	教育・文化施策の推進	■滋賀県信楽町（大戸川ダム） 陶芸の森整備（体験講座、セミカアトマーケット開催）（H2～） ■青森県鶴田町（廻堰大溜池） 津軽富士見湖一周マラソン大会（H11～） ■山口県錦町（平瀬ダム） 子ども自然王国（H13） 水源地を目指して寂地登山（H13）
	保健・医療・福祉施策の推進	保健・医療・福祉施策の推進	■青森県南郷村（世増ダム） 保育所改築・老人福祉センター建設（H6～9） ■北海道東川町（忠別ダム） 健康保養プログラム（広域・民間ネットワーク）（H12～16）
国土管理・自然環境保全対策	農林地の保全・管理	農地、林地の保全・管理	■高知県大川村（早明浦ダム） どんぐり銀行（植樹、針葉樹から広葉樹へ）
住民の意識改革・人材育成	生涯学習の推進		■高知県大川村（早明浦ダム） 生涯学習村（通年）
	人材の育成		■奈良県川上村（大滝ダム） ※むらづくり塾（H7～現在活動休止） ■高知県大川村（早明浦ダム） 白滝の里再編「人材銀行」 ■京都府南山城村（高山ダム） 水源地域対策アドバイザー事業（H13） 地域づくり研究会（H14～）

資料：水源地域活性化対策調査フォローアップ調査

3. まとめ方

代表事例について、以下の項目で取りまとめた。

①計画対象地域の概要（計画策定時）

調査対象箇所の位置、人口・産業特性（計画策定時）

②活性化のテーマ（キーワード）

活性化計画の特徴

③水源地域活性化計画の概要

活性化計画における課題とその対応方策（事業）

④活性化事業の概要

事業の概要とこれまでの経緯、現状

⑤活性化のポイント

事業の成功要因

⑥今後の方向・課題

今後の事業の方向性、活性化に向けての課題

4. 調査結果の概要

代表事例として取り上げたそれぞれの水源地域における活性化のポイントを概括すると、以下のような留意点にまとめられる。

① 地域住民を主体とする地域活性化の取り組み

いずれの地域でも、地域活性化の取り組みが地域住民主体に広がっていくことにより、地域独自の取り組みとして定着化していることである。

また、そうした取り組みへの拡大にいたるまでには、行政および地域住民の中に意欲ある積極的な活動を行った人が存在していることである。

そうしたなかで、地域住民と行政のパートナーシップによる活性化の取り組みが展開されていることが重要となっている。

具体的には、地域住民が楽しみながら特産品開発に取り組んだり（青森県西目屋村）、イベントを企画運営している（熊本県菊池市）事例や、地域住民と行政が連携しながら地域全体の活性化・計画策定に取り組んでいる（北海道美瑛町）、地域住民全てが人材であるという視点から人材活用システムを整備している（高知県大川村）事例などがある。

また、行政が推進室を設置するなど、積極的に地域をリードしている（奈良県川上村）事例がある。

② 既存地域資源とダム整備に伴う新たな資源の活用によるメニューの多様化、地域のプロデュース

地域活性化に取り組んでいる地域に共通してみられることは、自然や温泉施設など既存の地域資源と、ダム整備にともなうダム湖などレクリエーション資源を活用し、多様な観光メニューを整備し、地域の資源・魅力を活かしきる取り組みを行っていることである。

特に、水源地域では自然や景観など優れた地域資源が豊富であるほか、さらに歴史や伝統、水文化などが豊かであることから、都市住民のニーズに応えた交流機会の提供を目指している地域が多い。こうしたなかで、代表的事例として取り上げた地域は、ダム整備に伴う周辺施設と既存施設を連携させ、交流機会、観光メニューの多様化を図るとともに、健康志向や環境志向といった現代人のニーズに応えられるよう地域資源をアレンジし、地域を一つの商品として積極的にプロデュースしていることである。

例えば、温泉資源とダム周辺の施設を連携させて観光メニューの多様化を図っている（熊本県菊池市）事例や、県の文化交流施設と連携し、海外からの利用者と地域とのワークショップなど交流機会を拡充している（滋賀県信楽町）事例、温泉や自然観察ツアーとダム周辺のレクリエーション施設（計画中）が整備されることにより地域の交流メニューの一層の充実を期待し、モニターツアーなど新たな地域のプロデュースを図っている（北海道東川町）事例などがある。

③ NPOや民間企業など地域内外に広げられた交流活動の展開

地域を積極的にプロデュースしていく中で、NPOや民間企業との連携を強くしていくことも活性化の1つの取り組みとなっている。

地域住民と行政とのパートナーシップがベースとなりながらも、広域的な交流のためのノウハウや具体的な全国展開を行うにあたって、健康や生涯学習をテーマとするNPOや環境問題等への取り組みを企業理念とする民間企業などと連携し、交流事業の拡大に努めている。

具体的には、環境問題や地域の活性化に取り組むNPOと連携しダム建設地を中心とした交流イベントを開催している（島根県仁多町）事例や、健康・環境学習をプログラムとするモニターツアーをNPOと連携して実施している（北海道東川町・前出）、また、「どんぐり」をきっかけとして、森林保全事業や都市と水源地域との交流事業を展開するに際して、民間企業の全国店舗をどんぐり銀行の支店として活用する（高知県大川村）などの事例がある。